



いしかわ労福協

第 503 号 2009年12月15日

発行所 石川県労働者福祉協議会
 発行責任者 上田弘志
 編集人 宮下 亮
 〒920-0024 金沢市西念3丁目3番5号
 電話 (076) 231-1737
 FAX (076) 231-1731
<http://www.ishikawa-rofukukyo.jp>
info@ishikawa-rofukukyo.jp
 毎月1回 25日発行
 定 価 一部 20円
 昭和39年3月30日 第三種郵便物認可

中央労福協第59回定期総会 連帯・協同で安心・共生の福祉社会をつくろう！



中央労福協は11月25日(水)、東京・日暮里の「ホテルラングウッド」にて第59回定期総会と60周年記念レセプションを開催した。全国の各地方労福協および事業団体の代議員が参加し、2008～09年度の活動報告・会計決算報告、2010～11年度の活動方針、予算、役員改選が議案として審議され、満場一致で可決した。

総会では最初に、笹森清会長が「労福協60周年の今年、民主党政権が誕生したが、政権コントロールの面では課題が多く、労働団体として連合や労福協が政権チェックしていかなければならない重要性がある。また、労福協60周年にあたり、時代は大きく変化している状況にある。50周年の時の鷲尾元会長の時代から今日にかけて、特に大きく社会変化が見られる。今は格差社会が広がり、貧困社会が大きくクローズアップされてきた。労福協が目指す福祉社会は決して間違っていない。中央および地方の労福協全体で今後も取り組んでいく」と挨拶した。



次に、来賓として連合の古賀伸明会長、厚生労働省の金子順一労働基準局長、反貧困ネットワークの湯浅誠事務局長が順次祝辞を述べた。

総会は、第1号議案2008～09年度活動報告、第2号議案2009年度会計決算報告・会計監査報告があり、満場一致で承認された。議事にうつり、第3号議案労福協の理念と2020年ビジョン、第4号議案2010～11年度活動方針案、第5号議案2010年度予算案が提案され、これも満場一致で可決した。第7号議案役員改選では、笹森清会長および高橋均事務局長は再任、組織の役員交代で副会長は全建総連の古市良洋氏、全労済の小野岡正氏、日本生協連の芳賀唯史氏が新任、会計監査は全労済の湯川洋氏が新任された。また、民主党政権のもと政策制度の課題を解決していくために自治労出身の大塚敏夫氏が事務局長代行として新任された。

60周年記念レセプションでは、労福協および事業団体の役員の他、各政党からも出席され、それぞれが労働者福祉運動への強化を期待するとの挨拶があった。

事務局日誌

開催日	曜日	会 議・行 事	開催場所
12月1日	火	12月事務局会議	フレンドパーク石川
		LSC打合せ(珠洲・能登)	珠洲市
12月2日	水	LSC打合せ(羽咋)	羽咋市
12月5日	土	退職前セミナー	労館(輪島会場)
		連合移動相談会	小松市公会堂
		さややか餅つきボランティア	かほく市
		退職前セミナー	労館(七鹿会場)
12月7日	月	中部会館協幹事会(～8日)	福井
12月14日	月	フレンドパーク石川防火講習会	フレンドパーク石川
12月15日	火	社会法律センター第32回定期総会	北陸会館
12月17日	木	中部労福協三役会議(～18日)	大阪
12月18日	金	石川労福協第5回理事会	フレンドパーク石川
12月20日	日	緊サボかほくセンター会員交流会	河北LSC
12月25日	金	北陸労金3県連合労福協連絡会議	山代温泉
12月28日	月	フレンドパーク互助会総会	フレンドパーク石川ホール

勤文協主催 第59回石川県勤労者美術展

石川県勤労者文化協会主催の「第59回石川県勤労者美術展」が11月11日から15日まで金沢勤労者プラザで開催された。

日本画、洋画、書道、写真、手工芸の5部門で日頃、創作活動に励む会社員や主婦、招待者（過去、同展の大臣賞受賞者）らの意欲作301点が展示された。

同展は昭和26年、石川県が「勤労者文化祭」として開催。昭和43年に勤労者文化協会が設立され、第18回より勤文協が引き継いで開催している。



11月11日（水）、金沢勤労者プラザで開会式が行われ、主催者を代表して宮下亮勤文協副会長と飴谷義博県商工労働部労働企画会長が挨拶。後援・協賛団体の吉田歩金沢市産業局労働政策課長、上田弘志県労福協理事長（連合石川会長）が順次祝辞を述べた後、テープカットを行い、勤文協顧問の先生や出品者代表らが加わり、クス玉割りで開場した。

これに先立ち、8日（日）には同会場で12名の審査員が厚生労働大臣賞、石川県知事賞、勤文協会長賞、北國新聞社長賞、金沢市長賞、北陸放送社長賞、連合石川会長賞、石川県議会議長賞、石川県労働者福祉協議会理事長賞、北陸労働金庫石川県本部長賞、全労済石川県本部理事長賞の

各1点と佳作数点を決めた。

会場入り口を勤文協華道部の会員の方による花で飾り、期間中には1,425名の方が来場し、作品をじっくりと鑑賞しながら美と触れる展示会となった。

最終日の15日（日）、同会場で閉会式が行われ、開会式と同様に飴谷義博県商工労働部労働企画会長、山口隆北陸労働金庫県本部副本部長、水野志郎全労済県本部専務理事らが挨拶し、各部門の審査員が講評した後、受賞者99名に表彰状と副賞の盾やメダルが贈られた。

厚生労働大臣賞、県知事賞、県議会議長賞を受賞した作品15点は12月8日～15日の間、県庁19階展望ロビーに特別展示された。



日本画



厚生労働大臣賞
「月夜の訪問者」
團野 孝江（津幡町）



石川県知事賞
「燃ゆる」
小田 正子（金沢市）



勤文協会長賞
「華」
広島 敏子（金沢市）



金沢市長賞
「高速からのパノラマ」
鍋島 茂明（金沢市）



厚生
「金沢港」
田中



石川
「」
多田



勤文
「ポ」
原田



金
「日」
中村

画



厚生労働大臣賞
「いきいき市場」
広見 (金沢市)



石川県知事賞
「向日葵」
公子 (金沢市)



文協会長賞
「ストマン」
武一 (白山市)



金沢市長賞
「日本人形」
俊雄 (能登町)

書 道



厚生労働大臣賞
「恩徳讃」
清澤 雅子 (白山市)



石川県知事賞
「閑不徹」
辰田佳寿子 (金沢市)



勤文協会長賞
「人盡楽」
木村 昭 (金沢市)



金沢市長賞
「月 草」
中本 富子 (金沢市)

写 真



厚生労働大臣賞
「秋 映」
玉岡さゆき (金沢市)



石川県知事賞
「滝打たれ荒行」
法邑 一男 (金沢市)



勤文協会長賞
「氷 結」
山本 昭子 (津幡町)



金沢市長賞
「雪 柿」
中村 克子 (金沢市)

手工芸



厚生労働大臣賞
「和・モダン」
中山 和良 (金沢市)



石川県知事賞
「華回廊」
辻 行枝 (能美市)



勤文協会長賞
「襷」
宮本都也子 (能美市)



金沢市長賞
「華やか」
森田みち子 (津幡町)



労福協や連合石川、民主党県総支部連合会、社民党県連合で設立した「石川県大衆運動活動家顕彰会」の第9回合祀追悼会が11月23日、金沢市卯辰山の顕彰碑前で行われ、参列した遺族ら約40名が労働運動に身を投じた活動家197名の功績を讃えた。

朝から青空に恵まれた会場で、顕彰会の上田弘志会長が挨拶し、宮下亮幹事が「設立趣意書」を朗読した後、新たに合祀された7名の名前が刻まれた顕彰プレートが奉納され、参列者が献花し祈りを捧げた。

引き続き、フレンドパーク石川で開催された「感謝の集い」では、上田会長の他、田中仁民主党県総支部連合会幹事長代理、宮下登詩子社民党県連合代表が挨拶し、川島靖県退職者連合会長が献杯の音頭をとった。また、出身単組や産別代表が新たに合祀された故人の労働活動歴やエピソードを語り、ご家族より御礼の言葉が述べられた。

顕彰会は、政治・労働・文化などの分野で、平和と民主主義の発展、教育・福祉・環境等の向上に尽力された物故者を顕彰し、併せて残されたご遺族を励ますことを目的としたもので、過去に合祀された人たちのご遺族も参列した。

第9回

石川県大衆運動活動家顕彰会



合祀者

<敬称略>

絹川 章(享年63歳 1945～2008年)

推薦団体: ニッコー労働組合

主な経歴: セラミックス連合北陸地本書記長

佐久間正久(享年73歳 1935～2009年)

推薦団体: 石川県高等学校教職員組合

主な経歴: 石川高教組執行委員長

南野 利明(享年59歳 1949～2009年)

推薦団体: 全労済石川県本部

主な経歴: 全労済県本部事業推進部長

竹内 伊知(享年83歳 1926～2009年)

推薦団体: 社会民主党石川県連合

主な経歴: 小松市長

橋爪 義守(享年84歳 1925～2009年)

推薦団体: 石川県教職員組合

主な経歴: 石川県議会議員

池端 孝雄(享年51歳 1957～2009年)

推薦団体: JP 労組北陸地方本部

主な経歴: JP 労組能登支部長

中野喜佐雄(享年86歳 1923～2009年)

推薦団体: 自治労石川県本部

主な経歴: 野々市町議会議員

「福祉なんでも相談」 第4回アドバイザー会議

11月18日(水)、フレンドパーク石川において「福祉なんでも相談」第4回アドバイザー会議が開催された。才田巖専務理事の開会挨拶の後、県ライフ・サポートセンターから1年間の「福祉なんでも相談」の状況報告があり、特徴点としては「43件の相談の内、21件がうつ病などのメンタル面の相談が半数を占め、クレサラ問題が6件、金融問題が5件、介護が4件等と圧倒的に精神的な病の相談が増加している。また、相談方法も電話相談がほとんどであった」と報告した。

その後、出席した各組織から状況報告があり、アドバイザーからは「派遣切りから正規社員まできており、失業者がさらに増加していること、うつ病の影響もあって相談時間が長時間になる

こと、自己破産等で保証契約の内容紹介が増加したこと、低所得者救済の融資制度を教えてください等の相談がある」と生々しい相談実態について意見交換がなされた。

「福祉なんでも相談」アドバイザー会議は、労福協、連合石川、北陸労働金庫、全労済県本部、全労済在宅介護センター、県職業能力開発プラザ、いしかわ子育て支援財団、喜成司法書士の各アドバイザー、支援団体として県消費生活センター、県社会法律センターが参加し、18名で構成している。



連合石川非正規労働センター 「移動相談」

労福協「ジョブいしかわ」は12月5日(土)連合石川非正規労働センターが開設した「移動相談」に協力、就業支援ブースを開設した。小松市公会堂で開設された相談会には11件の相談が寄せられ、内5件が就業相談だった。就業相談には「ジョブいしかわ」の相談員2名が対応し、相談者は年齢32歳から74歳に至り、就業について幅広い相談を受けた。

石川県の求人倍率は0.48倍、小松職業安定所管内の求人倍率は0.32倍で県内では最下位であり、再就職は特に難しい地区である。また、正社員で勤めようとなるとさらに厳しい状況になる。

11月28日に開催された「第29回全国クレサラ・商工ローン・ヤミ金被害者交流集会 in 北九州」では、

多重債務に至った経過を次のようにあげている。昔はギャンブル依存症で多重債務に陥るケースが多かったが、最近では収入減により多重債務者になる要因がトッ



プとなっている。つまり、①就職できなければ収入が無くなり、預金を取り崩しての生活となる。②預金が無ければ、サラ金から借金して生活することになる。③再就職までの期間が長ければ長いほど借金が増えて多重債務者となる。再就職ができない者が増えると多重債務者も増えてくる。未就労者を減らすことが多重債務者を減らすことにつながると提起されていた。

県 LSC 事務局次長 一明政行

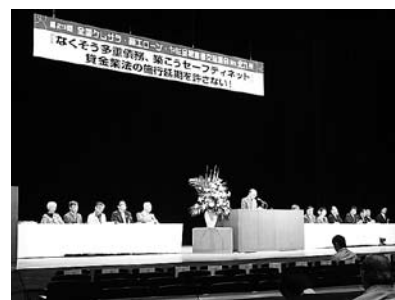
第29回全国クレサラ商工ローン・ヤミ金被害者交流会 IN 北九州

11月28日～29日、小倉市の九州厚生年金会館に弁護士や司法書士等1500名が参加して開催した。交流会は、全体会議と21の分科会、パネルディスカッションが行われた。来賓挨拶として中央労福協の高橋均事務局長が、自己責任・成果主義で「借りたヤツが悪い」社会から昔ながらの「絆や支え合い」を大事にする社会に変えようと訴えた。

基調報告で、梶島敏雄事務局長は正義とは？人助けとは？を考える日々を送っていると訴えた。被害者体験発表では、コスモスの会より、サラ金等へ全額返したら、今度は「お金を借りて下さい。」という電話が毎日職場にかかってきた。仕事に支障がでたので、また借りてしまったと報告した。

基調講演では、講師の二宮厚美氏(神戸大学発達科学部教授)が、「新自由主義的構造改革の破局とセーフティネット構築の必要性」と題し、昔は働くことができない高齢者や病気がちな人が貧困となっていたが、最

近はワーキングプアが引き金となって貧困が生まれている。現在、年収200万円以下の貧困と呼ばれる層は1100万人もいる。仕事が無く、収入が少なく、生活ができなく、サラ金から借金する。返金の見込みが立たず、将来に向かって生きる希望が無くなると人間性も無くなると力説した。



パネルディスカッションでは、メインテーマ「消費者庁・消費者委員会に期待するもの」～消費者被害の根絶を求めて～と題し、コーディネーターに黒木和彰弁護士が担当して進められた。最後に閉会にあたり、「来年は岐阜で会いましょう」と締めた。

県 LSC 事務局次長 一明政行

無料職業紹介所「ジョブいしかわ」開設から1年

労福協の就業支援活動として昨年12月1日より開設した「ジョブいしかわ」は、開設以来166名が相談に訪れ、100名が求職登録をした。この内16名の就職が決まり、1名が登録取り下げ、現在は83名が仕事を探している状況にある。

開設した昨年12月は、100年に一度といわれる急激な景気悪化で、12月は41名が相談に訪れたが、最近では月平均10名程度に減ってきている。実際の中身では「多くの人に仕事の紹介」をとの思いに反し、求人は全くない状況にある。求職相談者にハローワークの求人情報をお知らせするに留まっている現状である。

11月末現在の求職登録者83名で地域別では金沢市

の方が57名と69%を占めている。年代別では50歳代、60歳代が57名と69%を占める。70歳代も5名いる。高齢者の求職理由は2通りで、「年金額が少なく、少しでも収入を得たい」とする収入型と「健康のために働きたい」とする健康保持型に分かれている。希望業種別では生産・労務の仕事28名、販売職18名、保安の仕事10名、事務職10名、技術職6名、運輸・通信業3名となっており、倉庫や工場内の勤務を希望している方が多くなっている。

今後、一人でも二人でも就職できるようにするにはいかに求人登録を増やすかが課題となっている。

県 LSC 事務局次長 一明政行

地域ライフ・サポートセンターだより

金沢LSC

京都紅葉の旅



11月26日(木)「京都紅葉の旅」に出かけた。休日の混雑を避け、平日に実施したが89名が参加し、バス2台で朝7時に金沢駅を出発した。小春日和の中、午前中は「東福寺」を1時間半にわたり散策した。通天橋からの紅葉は素晴らしい景色だった。「京都おばんざい」の昼食をホテルでとり、午後は紅葉と「みかえり阿弥陀仏」で有名な「永観寺」を拝観、こちらも大変な賑わいだった。最後は千枚漬けで有名な「大安」で参加者一同、土産物を大量に買い込み、帰路に着いた。

13時間のバスによる長旅だったが、事故もなく終了することができた。

金沢LSC 旅行部会長 宮本一二

チャリティろうきん部会

金沢LSC 労金部会は、10月10日産業展示会館2号館で開催されたお客様感謝祭

「ありがとう ろうきんフェスタ2009」ちびっこゾーンの売上金52,380円を、北陸労働金庫久富象二営業部長から特定非営利法人パッチワークへ贈呈した。

担当者からは「大切にに使わせてもらいます」と感謝のメッセージを頂いた。

金沢LSC 事務局

連合石川結成20周年記念祝賀会

「2010年新春の集い」

1. 日時 2010年1月5日(火) 14:00～
2. 場所 ANAクラウンプラザホテル金沢

七尾・鹿島LSC

ウォーキング大会



10月31日(土)「参加者は集まるだろうか?」「天候ははれるだろうか?」などなど不安要素がいくつも頭をよぎりました。それというのも昨年は雨で中止となった苦い経験があり、はたして今年は・・・?との思いが強かったのが事実です。しかし、当日はお子さんを含め多くの参加者とウォーキング日和にも恵まれ、みんなでさわやかな汗をかく事ができました。爽快感いっぱいウォーキング後は、親睦を深めるためにバーベキューも併せて行い、お腹も満足しながら、楽しい一時を過ごしてもらいました。

現代社会では利便性が高くなるほど歩く機会も減ってきています。そんな中で、健康運動の一環、気分転換、ストレス発散の一機会としてもこの大会が一役担えるよう来年も企画をしたいと考えています。皆さん健康のために一日一万歩は歩きましょう。

タオル収集キャンペーン



今春から秋にかけて福祉施設に贈呈するため、7年目の「未使用タオル収集キャンペーン」に取り組んできました。本年は組合員、労組OB、一般の方々からタオル約1500本の善意が寄せられました。

集められたタオルは11月10日(火)管内の特別養護老人ホーム7箇所に贈呈することができ、各施設の代表の方々からは「利用者の入浴や消毒用に使えるので、大変役立ちます。」と感謝していただきました。

一人一人の小さな気持ちが積み重なって、できた大きな取り組みです。今後も地域において活動の輪がさらに広がっていくことを期待します。

七尾LSC 事務局 井村幸喜

子育て支援
いしかわ緊急サポートネットワーク

会員登録状況／サポート状況 2009年11月現在

地域センター	サポート会員	利用会員	サポート回数
すず	6	11	11
わじま	2	12	5
ななお	7	4	0
はくい	4	6	4
かほく	18	61	14
かなざわ	162	421	636
はくさん	38	83	12
こまつ・のみ	20	40	47
かが	0	0	0
計	257	638	729